

報道各位

TOKYO FM『シンクロのシティ』 矢沢永吉が渋谷スペイン坂スタジオに生登場！ アルバムタイトル『Last Song』の意味とは

8月1日(水)、約2年ぶりとなるニューアルバム、『Last Song』をリリースした矢沢永吉が、TOKYO FM『シンクロのシティ』(月-木 16:00~18:45)の渋谷スペイン坂スタジオでの公開生放送に出演しました。



ニューアルバムのリリース日でもあったこの日、矢沢永吉が『シンクロのシティ』でスペイン坂の生出演に登場。活動40周年を迎えた日本のロックレジェンドである矢沢永吉が、この日の番組テーマ「カッコイイとは」について、そして『Last Song』という意味深いタイトルのアルバムについて、大いに語りました。大物を前に緊張気味の番組パーソナリティ、堀内貴之、MiOも、矢沢永吉のやさしいオーラに包まれて、リラックスした雰囲気番組が進行していきました。

●シンクロのシティ出演時の様子

番組冒頭では、番組全体のテーマに連動して、「カッコイイに関する YES・NO クイズ」を実施。「男より女にカッコイイといわれたいか」という質問に対しては、「NO。今までヤロウのファンが深く強く支えてくれた。女性大好きです、けど、男と一緒に来た歴史、本当にサンキュー」と矢沢らしく熱く回答した。また、「今の俺サイコー！と思うことがよくある」という質問には、「YES。ハッキリ言ってこのアルバムを作れたこと。このアルバムを作れたことが本当に嬉しかった」と今回のアルバムへの自信をうかがわせた。

そして、ファンにとって衝撃的な『Last Song』というタイトルについて聞かれると、「『Last Song』のメロディーを聴いたのと同様くらいにこのタイトルが浮かんだ。そこで、作詞家に、『Last Song』というタイトルで、内容はフランク・シナトラの『マイウェイ』の矢沢版のような詩を書いて欲しいと依頼した。完成したときには、自分で言うおいて思わずホロっとした。そして、これを歌い終えてホロっとしたのと同時に、よし、アルバムタイトルも『Last Song』にしよう、と思い立った」とのエピソードを披露した。

今回多くのプロモーションをこなしたという矢沢永吉。その先々で、このアルバムには LOVE がある、愛があると言われとても嬉しく感じているという。聴いた人に愛を感じてもらえる理由はアコースティックギターやパーカッションなど、アナログの音をいっぱい使い、一発録りにこだわったから。「さあ行こうか(演奏しようか)となったときに、ミュージシャン同士、お互いの「ゆれ」や「さぐり」がある。それが人間の生理に一番近いサウンドになる」と、こだわりを語った。

最後に40周年ツアーの意気込みについて聞かれると、「相当熱いツアーになると思う。温度の熱さも、オーディエンスの熱さも。僕は死なずに帰ろうと思っている。」と答えた。

ダイナミックな動きも交えて真剣に話したり、スタジオのガラス越しにファンを抱きしめるような動きをしたりと、スタジオの外で見守るファンも大興奮のあつという間の20分でした。

2012年8月2日

●番組概要

番組名: シンクロのシティ (TOKYO FM)

放送日時: 月-木 16:00~18:45

●矢沢永吉アルバム情報

2012年8月1日(水)発売 New Album 『Last Song』

【初回限定盤】GRRC-38/E ¥3,500(Tax-in)

※スペシャル BOX パッケージに特製オリジナル T シャツを封入

【通常盤】

GRRC-38 ¥3,000(Tax-in)

【発売／販売元】GARURU RECORDS

